

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

東京オリンピック・パラリンピックホストタウンを通じた「にぎわい」創出プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

平塚市

### 3 地域再生計画の区域

平塚市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現状

本市は神奈川県南部の中央に位置し、都市方面への通勤など交通の利便性に優れ、温暖な気候や穏やかな四季、海、川、里山など豊かな自然に恵まれた湘南の都市である。このような環境を活かし、産業、都市基盤が発達するとともに、豊かな文化、活発な市民活動などが充実するまちとして、今日まで発展してきた。

しかしながら、本市の総人口は平成22年11月の26万863人をピークに、平成30年1月現在では25万8,381人と減少傾向にあり、その傾向は今後も続くものと考えられる（図1）。特に生産年齢人口の減少傾向は市内事業所数や従業員数の減少と相まって、市内市場の縮小による地域経済の低迷が懸念される。

このような中で、本市の観光業に着目すると、観光客数は平成18年の641.2万人から平成28年には729.6万人と、10年間で約88万人増加しており（図2）、本市の一大観光イベントである湘南ひらつか七夕まつり開催月の7月に年間観光客数の約3割が集中している（図3）。

また、さがみ縦貫道路の全線開通など交通インフラ整備によるアクセス向上や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けリトアニア共和国のホストタウンに登録、同国のオリンピック委員会と事前キャンプの実施に関する基本協定を締結するなど、本市の存在感を国内外へ強くアピールし、新たな人の流れを呼び込むことができる環境が整ってきている。

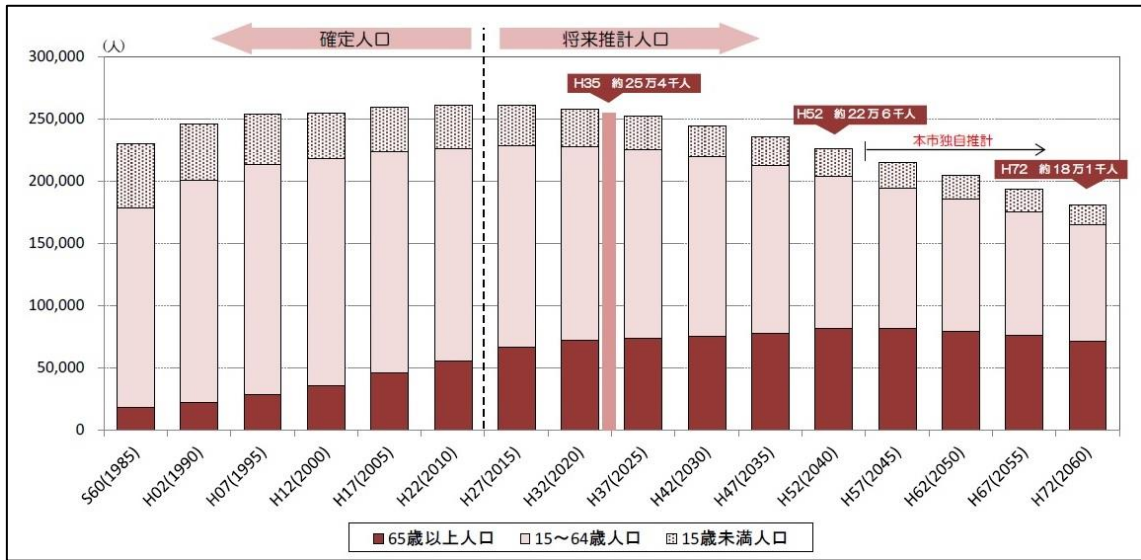


図1 本市の人口の推移と見通し

(出典) 平成 28~35 年度平塚市総合計画「ひらつかN e X T」

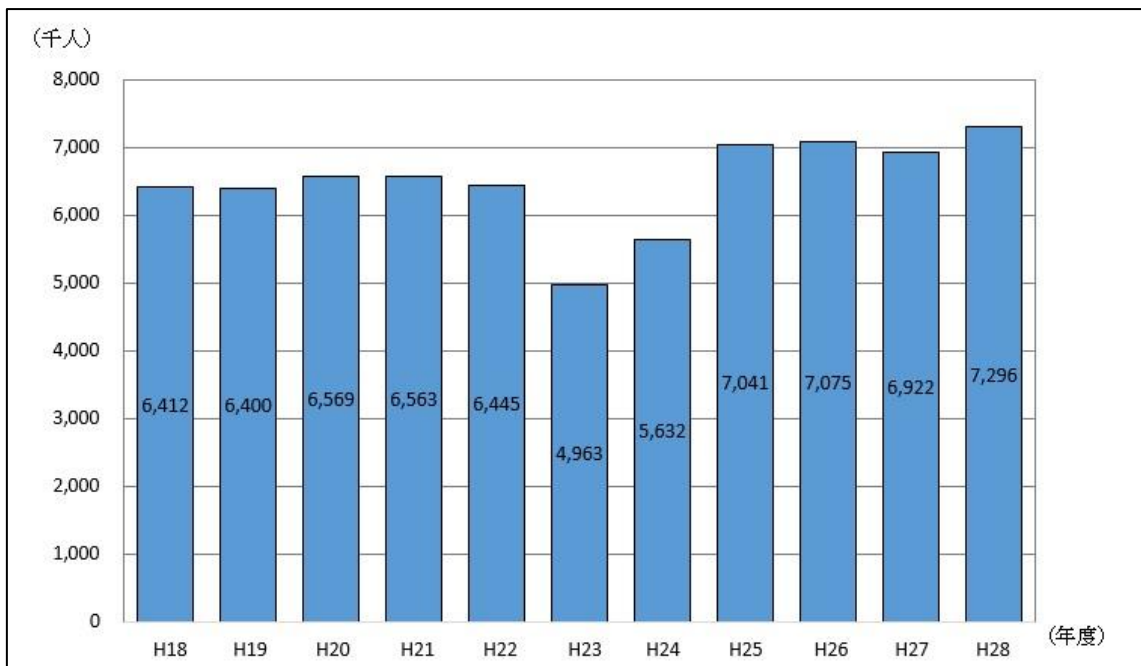


図2 本市の観光客数の推移

(出典) 神奈川県「入込観光客調査」

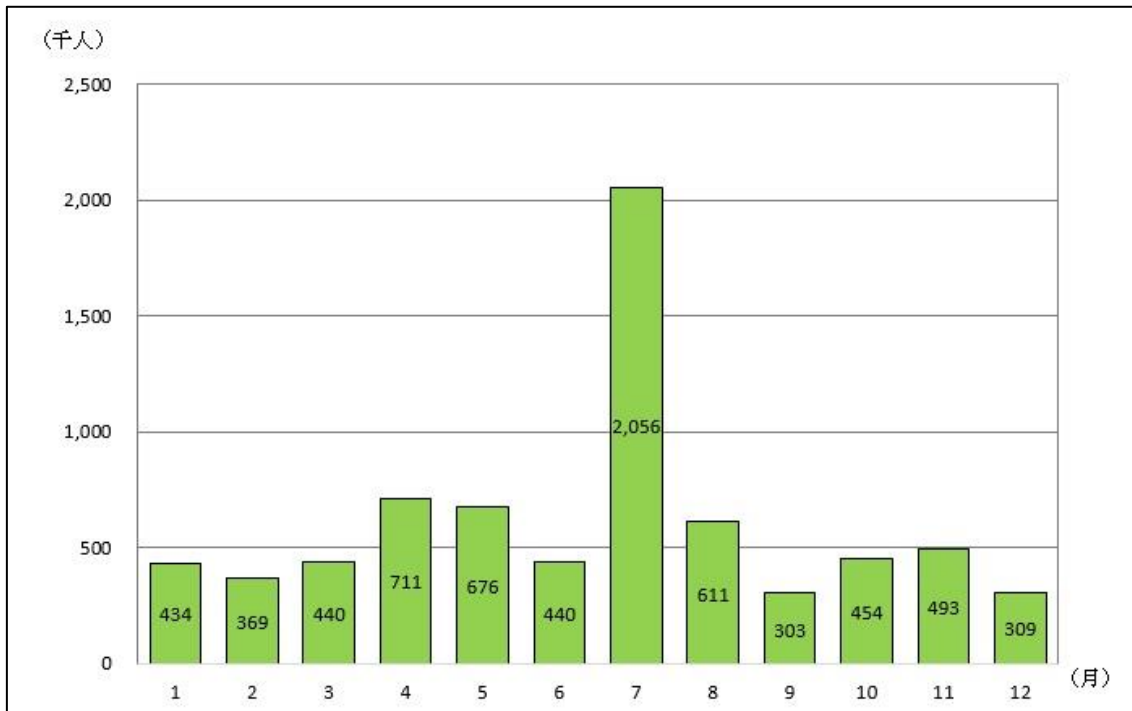


図3 平塚市の観光客数の月別推移（平成28年）

（出典）神奈川県「平成28年入込観光客調査」

#### 4-2 地域の課題

人口減少や人口構造の変化、地域経済の低迷などによるまちの活力低下が深刻になる中で、多くの観光客を呼び込むことは地域に活力をもたらす原動力として大変重要である。

本市の観光客は増加傾向にあるものの、本市最大の観光客数を誇る湘南ひらつか七夕まつりに左右されるところが大きい。このため、年間を通じて観光客を市内の様々な拠点に呼び込むとともに、人々が繰り返し訪れたいと感じることができる仕組みづくりが求められている。

同時に、既存の観光資源に頼りすぎることなく、今ある魅力を活かしつつ、新たな観光資源を創出し、今までに本市を訪れたことがなかった人々を呼び込むことが必要となっている。このような中で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて高まり続ける機運を逃すことなく、本市がリトアニア共和国をキーワードにした情報発信拠点として新たな「にぎわい」を創り出すことが喫緊に取り組むべき課題となっている。

### 4-3 目標

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを、本市への観光客を一気に増加させる絶好の機会と捉え、ホストタウン交流計画に基づいてリトアニア共和国との多様な交流事業を市内の様々な拠点で展開し、新たな観光資源とする。この多様な交流事業を通じて、リトアニア共和国をキーワードにした「今だけ、ここだけ」しかできない体験を提供し訪れる人々に繰り返し本市を訪れたいと感じてもらおうとともに、リトアニア共和国の発信拠点としての本市の新たな魅力を積極的に国内外にPRすることで、年間を通じた観光客を増加させ、交流人口の増加により一層のまちの「にぎわい」を創出する。

#### 【数値目標】

事業	リトアニア共和国との交流推進事業	年月
KPI	ホストタウン交流計画に基づき展開する事業により増加する交流人口（累計）	
申請時	—	H30.1
初年度	1,700人	H31.3
2年目	3,500人	H32.3
3年目	6,000人	H33.3

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

本市は2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、リトアニア共和国のホストタウンの登録を受けるとともに、リトアニア共和国オリンピック委員会と事前キャンプの実施に関する基本協定を締結した。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを、本市への観光客を一気に増加させる絶好の機会と捉え、スポーツ、文化及び経済等の分野におけるリトアニア共和国との多様な交流事業を市内の様々な拠点で展開するとともに、リトアニア共和国ナショナルチームのメインキャンプ地であり、本市最大の観光スポットである平塚市総合公園の施設を「おもてなし」の目線で整備することで、将来にわたり快適で使いやすい環境を整え、国内外から多くの観光客を呼び込み、一層のまちの「にぎわい」を創出する。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：リトアニア共和国との交流推進事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを、本市への観光客を一気に増加させる絶好の機会と捉え、リトアニア共和国との多様な交流事業を市内の様々な拠点で展開し、新たな観光資源を創出することにより、繰り返し本市を訪れたいと感じてもらうとともに、更に積極的に国内外へPRすることで、年間を通じた観光客を増加させ、一層のまちの「にぎわい」を創出することを目的とする。

(事業の内容)

「リトアニアを感じるなら平塚で！」を合言葉に、ホストタウン交流計画に基づき、リトアニア共和国とのスポーツ、文化及び経済などの分野における多様な交流事業を通じて、リトアニア共和国をキーワードにした「今だけ、ここだけ」しかできないコト体験（体験型を主とした事業）やビジネスマッチングなどを市内の様々な拠点において展開することにより、訪れる人々に繰り返し本市を訪れたいと感じてもらうとともに、リトアニア共和国の発信拠点としての本市の魅力を積極的に国内外にPRすることで、年間を通じた観光客を増加させる。

→各年度の事業の内容

### スポーツ交流事業

初年度) 東京オリンピック・パラリンピック出場を目指すリトアニア共和国ナショナルチームによるテストキャンプを受け入れ、メイン会場となる平塚市総合公園での選手との交流イベントや公開練習など、リトアニア共和国のトップアスリートとふれ合えるという本市でしか体験できない機会を創出し、交流人口の増加を図る。

2年目) 初年度の取組を発展させ、市内の子どもたちはもとより、スポーツに興味関心を持つ市外の子どもたちもリトアニア共和国のアスリートとふれ合えるスポーツ教室や、本市を拠点として活動するプロスポーツチームとの連携イベントを市内の各施設において実施するなど、訪れる人々の生涯の記憶に残る機会を創出することで、交流人口の増加を図る。また、市外からの集客力が高く、広い商圈を持つ商業施設と連携し、リトアニア共和国のアスリート達によるトークショー等を開催し、誰もが世界のトップアスリートを身近に感じることができる機会を提供する。リトアニア共和国やプロスポーツに関する認知を獲得するとともに、関心を惹起させ、市内外からの交流事業への参加者増加を図る。

#### 文化交流事業

初年度) リトアニア共和国を代表する工芸品や食料品などの販売をはじめ、文化や歴史を紹介するパネル展示を行う「リトアニアブース」を平塚市役所や平塚市総合公園、湘南ひらつか七夕まつり会場など、年間を通じて様々な場所で開設し、日本国内ではまだ十分に発信されていないリトアニア共和国の文化にふれることができる機会を提供する。更に、リトアニア共和国アリートゥス市と連携し、湘南ひらつか七夕まつりにおいてリトアニアの伝統文化を紹介するプログラムを実施することで、本市最大の観光客数を誇る七夕まつりの魅力を磨き上げる。

2年目) 初年度に開設した「リトアニアブース」を更に発展させ、リトアニア共和国の伝統工芸品を実際に作成することができるワークショップを実施する。ブース出展やワークショップを通じてリトアニア共和国の魅力を知ってもらえた人々に「リトアニアサポーター」になってもらい、その魅力や本市とのつながりを主体的に市内外にPRしてもらうことで、新しく訪れた人々が次の「リトアニアサポーター」になる連鎖を創り出し、本市を訪れる人々を増やすことによって、交流人口の増加を図る。

### 経済交流事業

初年度) リトアニア共和国パネヴェジース市で開催される「リトアニア共和国オリンピックデー」において事前キャンプ地としてブース出展する機会を通じて、本市の魅力をPRし、リトアニア共和国における認知度向上と「平塚に行ってみたい」と思う人々の増加を目指すことで、リトアニア共和国をはじめとする国外からの観光客増加を図る。

2年目) 平塚商工会議所、平塚青年会議所、平塚市観光協会等の団体と連携し、リトアニアの料理教室やフードフェスティバルを実施することにより、まだ日本国内への流通が少ないリトアニア共和国の食品や伝統料理を味わえる希少な体験を広くPRし、交流人口の増加を図る。また、市内で開催される湘南ひらつかテクノフェアにおいて、ライフサイエンスや光工学等のリトアニア共和国の最先端技術を紹介することにより、テクノフェアに来場し、本市との産業間連携を目指す人々の流れを創ることで、交流人口の増加を図る。

#### (4) 地方版総合戦略における位置付け

「平塚市総合戦略」における重点施策「強みを活かしたしごとづくり」の数値目標として、年間入込観光客数(戦略策定時 707 万人→H35 740 万人)を定めており、本プロジェクトはまさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

#### (5) 事業の実施状況に関する客観的な指標 (重要業績評価指標 (KPI))

事業	オリンピック事前キャンプ等推進事業	年月
KPI	ホストタウン交流計画に基づき展開する事業により増加する交流人口 (累計)	
申請時	—	H30.1
初年度	1,700 人	H31.3
2年目	3,500 人	H32.3

(6) 事業費 (単位：千円)

オリンピック事 前キャンプ等推 進事業	年度	H30	H31	計
	事業費計		12,114	16,664
区分	負担金	12,114	16,664	28,778

「ひらつかリトアニア交流推進実行委員会」へ負担金を支出

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	H31	計
保険業	100	100	200
計	100	100	200

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業の KPI であるホストタウン交流計画に基づき展開する事業により増加する交流人口について、実績値を公表する。また、ひらつかリトアニア交流推進実行委員会により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度3月にひらつかリトアニア交流推進実行委員会による効果検証を行い、以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに当市ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間

平成30年4月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし



### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 総合公園施設整備事業

事業概要：リトアニア共和国ナショナルチームのメインキャンプ地であり、本市最大の観光スポットである平塚市総合公園の施設を「おもてなし」の目線で整備することで、将来にわたり快適で使いやすい環境を整える。

実施主体：平塚市

事業期間：平成 30 年度～平成 32 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の KPI であるホストタウン交流計画に基づき展開する事業により増加する交流人口について、実績値を公表する。また、ひらつかリトアニア交流推進実行委員会により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 3 月にひらつかリトアニア交流推進実行委員会による効果検証を行い、以降の取組方針を決定する。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに本市ホームページ上で公表する。